

生活支援コーディネーター (地域支え合い推進員)

協議体や生活支援を担う事業所と連携



- 日常生活上の多様な支援体制の充実・強化
- 高齢者の社会参加(介護予防)の推進

[主な役割]

- ちょっとした支え合いサポーターなどの生活支援の担い手を養成
- 住民主体の「通いの場」を設置するなど、サービスの開発
- 地縁組織など、多様な主体への協力依頼
- 協議体との連携

[生活支援コーディネーターの種類]

- **第1層**
帯広市全域への生活支援サービスの開発・普及や、基盤整備を推進する役割
- **第2層**
日常生活圏域の生活支援サービス提供団体間の連携協働を促進する役割
- **第3層**
サービス提供を行う役割

協議体 (生活支援・介護予防ネットワーク会議)

地域の実態をよく知っている住民や関係者、行政と一緒に話し合っていていくために、各自治体が設置するものが協議体です。

帯広市第1層 生活支援コーディネーター

おおえ たかし
大江 教史



昭和60(1985)年、帯広市生まれ。知的・精神障がい者の施設や地域移行の支援業務を経て、平成25年4月から地域包括支援センター帯広至心寮に入職。介護予防ケアマネジメント、高齢者の総合相談業務、地縁組織や民生委員との情報共有、地域ケア会議の実施などの業務を担い、平成28年7月1日から帯広市第1層生活支援コーディネーターとして地域資源及び地域ニーズの現状把握・課題分析、地域の支え合いによる生活支援の必要性の普及啓発と担い手の養成、協議体と連携の業務にあたっています。

お問い合わせ先

〒080-0015
帯広市西5条南30丁目19番地 帯広至心寮
TEL:080-5596-1671
E-mail:t.ooe@shinsyukyukai.jp

[情報発信サイト]

<http://www.oss1.net/>

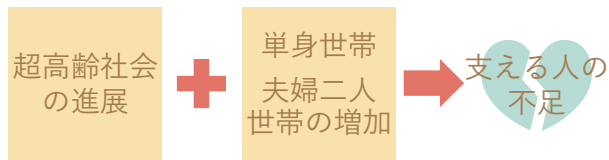


地域で支えあう
街づくり
- 帯広市 -
生活支援サービス体制整備事業



超高齢社会が進みます

2025年には、全国に800万人以上いると言われる団塊の世代が75歳以上になり、超高齢社会が進展します。単身世帯や夫婦二世帯もさらに増加し、このままではこれまでと同様のサービスが受けられなくなります。



介護保険が改正されました

上記の超高齢社会の到来を受け、2015年4月に介護保険制度が改正されました。これまでの介護予防策は、要介護予備軍を対象に、要介護状態にならないことを目指してきましたが、改正後はすべての高齢者を対象に社会参加を促し、地域で暮らし続けるための生活支援を目指しています。

	これまでの 介護予防のかたち	これからの 介護予防のかたち
考え方	要介護状態にならない介護予防	地域で暮らし続けるための生活支援
対象	要介護予備軍	すべての高齢者
目指すもの	身体・精神機能の向上	社会参加
サービス活動	介護予防サービス (1次・2次予防)	居場所・集いの場・ 支えあい

最後まで住み慣れた地域で、自分らしく暮らしていくために。

合言葉は「お互いさま」

地域には、生活上のちょっとした困り事がたくさんあります。みんなが人ごとではなく、自分のこととしてとらえ、助け合える地域にしていきたいですね。



<地域内での助け合い>

- ちょっとしたお手伝い
 - 気づかい、優しさ
- で解決することがたくさんあります。

社会参加で自分も地域も元になります！

- ★ 同世代だから理解し合えることがたくさんあります。
- ★ これまでに培った「知識」「経験」「能力」を活かせます。
- ★ 自分自身に生きがいや役割を実感できます。
- ★ 自分自身の介護予防にもつながります。

みんなの力で「支えあいのまち」を創るために

暮らしを支える仕組みをつくろう！

- ① 気軽に相談できる体制づくり
- ② 住民同士での声かけや見守りの推進
- ③ 助け合いの仕組みづくり

福祉への理解を進めよう！

- ① ふれあいや交流の場づくり
- ② 社会参加の環境づくり
- ③ 関係団体の連携強化

住民同士のつながりを広げよう！

- ① 福祉情報の発信
- ② 福祉を学ぶ(感じる)場づくり
- ③ 福祉ボランティアの充実